

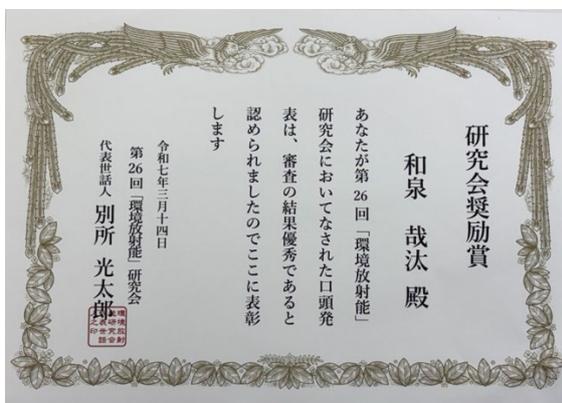
環境放射能研究会 奨励賞を受賞しました (2025/3/14)

テーマ：災害放射線医学、トリチウム、人材育成
会場：高エネルギー加速器研究機構（茨城県つくば市）

2025年3月14日（金）に第26回環境放射能研究会において、当研究所の災害放射線医学分野（千田浩一 教授、鈴木正敏 特任講師）に所属する大学院生の和泉哉汰氏が、「奨励賞」を受賞しました。本研究会における学生および若手研究者の発表の中から審査によって4件の優秀な発表が選ばれ、今後の研究活動の奨励を目的として表彰されました。

和泉哉汰氏の受賞タイトルは「低濃度持続処理によるヒト細胞内へのトリチウムの取り込み・局在と DNA 二重鎖切断誘発との関連性」（和泉哉汰、磯部理央、佐藤拓、山下琢磨、木野康志、福本学、鈴木正敏、千田浩一）です。福島第一原子力発電所事故後の対応として2023年8月からALPS処理水の海洋放出が開始され、処理水に含まれるトリチウムに国内外の関心が高まっていました。本発表では、告示濃度限度に近づけた低濃度でトリチウムを持続処理した正常ヒト由来上皮細胞を解析し、環境レベルでのトリチウム影響の理解を目指して実施しました。細胞外環境から細胞内へのトリチウム移行に正の線形相関があることを確認しましたが、低濃度トリチウム範囲の中には生物影響を誘発し始める濃度が存在するため、放射性物質の移行と生物影響の誘発が必ずしも一致しないことを明らかにしました。また、異なるトリチウム標識化合物を用いた検討の結果、細胞影響の誘発には細胞内トリチウム量以外に、局在が重要な要素となることを明らかにしました。これまでに細胞内局在と細胞影響を関連付けた報告はなく、今回発表した2点の新規性が高く評価されました。

表彰式は本研究会最終日の2025年3月14日に行われ、受賞結果は本研究会ホームページ上に掲載されています。（<https://rcwww.kek.jp/enviconf/Award-2025.pdf>）



賞状



受賞後の様子（和泉哉汰氏）

文責：千田浩一（災害放射線医学分野）